

あおもり 国際交流つうしん

国際交流情報誌

1

2019
No.131

海外技術研修員が帰国しました

2018年8月から11月までの研修を修了した、平成30年度青森県海外技術研修員が母国パラグアイへ帰国しました。研修員から青森県の皆さんへのメッセージをご紹介します。

私の名前は渡部伊藤ニコラス浩二です。2018年8月22日から11月30日までの青森県での研修を無事に終了させていただきました。私の父は青森市出身で、私は日系2世です。南米のパラグアイ出身です。今回の研修は私の初めての日本滞在でした。



弘前公園で紅葉狩り

この度、自分の文化のルーツを知り、そして言語、経営学、食品加工の技術を習得する素晴らしい機会を得ました。来日直後に、青森大学で日本語の集中講義を受講し、その後の研修や生活に非常に役に立ちました。

青森大学では日本語のほか、マーケティングとビジネス戦略プログラムを学びました。山田高校では調理実習の授業に参加し、新しい生産技術を学ぶとともに、実際に学生と調理をし、現場で学ぶ機会となりました。

研修終盤には、せんべいや総菜などの食品加工工場や弁当店等を訪問し、大変有意義な時間となりました。

この研修で学んだことをもとに、パラグアイで日本の味とパラグアイベースの味を混ぜ合わせて、弁当屋ビジネスを始めたいと思っています。パラグアイで小さな日本文化を紹介することが目標です。

今回私を研修員として受入れ、サポートしてくださった青森大学・山田高校の皆様、青森県の皆様、県庁、国際交流協会に深く感謝しています。どうもありがとうございました。



修了式にて三村知事（左）と



宮島でパチリ

渡部 伊藤 ニコラス 浩二

研修内容：食品加工

研修先：青森大学、青森山田高等学校、その他県内事業所

募集しています

■ 賛助会員 supporting member

国際交流・協力に関する事業に、できるだけ多くの皆様のご理解、ご協力をいただきたく、賛助会員の募集を行っております。
Donations from supporting members are spent on our activities to promote international cooperation.

■ 国際交流ボランティア volunteer

国際交流活動に参加するボランティアを募集しています。

People who are interested in internationalization are invited to participate in our volunteer program.

お問い合わせ・お申し込みは、青森県国際交流協会まで。TEL：017-735-2221 E-mail：info@kokusai-koryu.jp

第2回公開講座「外国人への日本語指導のノウハウ～青森大学の取組」を開催しました

2018年10月9日（火）、青森県観光物産館アスパム2階のあおり体験ホール（ねぶた前スペース）にて、第2回公開講座「外国人への日本語指導のノウハウ～青森大学の取組」を開催し、県内日本語学習支援団体メンバーや当協会ボランティアなど、18名の皆様にご参加いただきました。

今回は青森大学准教授の石塚ゆかり氏より、外国人への日本語会話指導の場において重要なポイント等をご指導いただきました。



当日は青森大学の留学生10名にも授業の一環としてご参加いただき、参加者は演習として、講義中のポイントに注意しながら実際に外国人へ指導する体験を行いました。

本公開講座にご参加の皆様、青森大学の皆様、誠にありがとうございました。



韓国ミニ文化講座を開催しました

当協会の国際交流ラウンジ運営サポータの李^イ 恵定^{ヘジョン}氏が講師を務め、2018年12月11日（火）、韓国の名節（旧正月）について、参加者の皆さんに学んでいただく「韓国ミニ文化講座」を開催しました。



布でできたポッチュモニ



折り紙のポッチュモニ



折り方を指導中

日本では新暦で祝うお正月も、韓国では旧暦の方が大切であること、最近では少なくなりましたが、韓服を着て両親に挨拶をすることなどを教えていただきました。

続いて、「ポッチュモニ」を和柄の紙で折りました。「ポッチュモニ」は福巾着、福ポケットという意味で、炒った豆を赤い紙に包み「ポッチュモニ」に入れて「福がありますように」と配ったのが始まりですが、今ではお年玉を入れる袋になり、実際にポケットの無い韓服の紐に通して利用し、ポケットの役目もします。

最後に韓国の伝統衣装である「韓服（ハンボツ）」の試着をしました。女性用はチマ（スカート）とチョゴリ（上着）で「チマチョゴリ」、男性用はパジ（ズボン）とチョゴリ（上着）で「パジチョゴリ」といいます。

韓国ドラマで女性が食卓に片膝を立てて座っているシーンを目にしますが、布をたっぷり使ったチマを着て座る時は片膝を立てないと裾が落ち着かないという韓服を着ていた時代の名残りであることを聞き、文化の違いを感じました。

「ポッチュモニ」の折り方をお知りになりたい方は、国際交流ラウンジ受付カウンターへお越しください。



韓服を試着

済州・青森子どもの美術交流プログラム～済州訪問

青森県と済州特別自治道の姉妹都市交流を一層推進するため、昨年度から小学生を中心とした美術交流プログラムを実施しています。今回は、県内の小学5・6年生の10名が2018年7月29日～8月1日に3泊4日で済州を訪問した様子をお知らせします。

参加者のほとんどが初めての海外で、青森空港で行われた出発式を終え、少し緊張しながら搭乗手続きを行いました。機内では、映画や音楽、ゲームなどでフライトを楽しんでいました。

仁川空港へ到着後、空港内で韓国料理を堪能し、金浦空港へ移動して再び飛行機に乗り、済州空港に予定通り到着しました。空港から外へ出るなり、気温と湿気の高さに皆驚いていました。ホテルに着いたのは夜遅かったものの、疲れた様子もなく1日目を無事に終えることができました。

2日目、済州道立美術館に到着すると、済州の児童たちから温かい歓迎を受け、日本語や韓国語でお互いに挨拶を交わしました。

交流プログラムでは3グループに分かれ、まずはパートナーのネームプレートを作成しました。日本語と韓国語での名前、そして裏面にはニックネームや好きな果物、スポーツ等の絵を描き、お互いを紹介し合うことで距離がぐっと近くなったようでした。午後のプログラムでは、パートナーの顔へ透明なシートを当てて顔のパーツをペンでなぞり色を付けて、お互いの“顔”を作成しました。特徴を捉えてよく似ているものから、実際とはかけ離れた独特なものなど、様々な作品が出来上がりました。



透明なシートを当て、顔のパーツをペンでなぞる



古布を使ったプログラム



水と筆を使って、石に絵や文字を自由に描く



自身が制作したパネルを使って、青森の魅力を紹介

次に、布を再利用したプログラムとして、着古したTシャツ等から長い紐を作り出し、屋外にある木と木が紐でつながっている部分へ、新たに紐を結びつけるという作業を行いました。すでに結びついている紐へ新たな紐を結びつけることにより、世界のつながりを表現しているとのことでした。更に、美術館の敷地にある石をキャンパスに見立て、水と筆を使って絵や文字を自由に描く、自然を生かした美術を体感しました。

児童たちはすっかり打ち解け、終始笑顔で交流プログラムを楽しんでおり、青森の児童たちが事前に準備していた青森の紹介では、パネルを見せながら韓国語と日本語で堂々と発表していました。工夫を凝らしたパネルやよく描かれている絵に、済州の児童たちも大きな拍手を送っていました。

3日目、済州世界自然遺産センターでは2グループに分かれ、小学生ガイドと共にユネスコ世界自然遺産に登録されているコムンオルムの登山をしました。児童からは「キツイ」「もう無理」等の声が聞こえてきましたが、一番



済州民族自然史博物館で、済州の守り神「トルハルバン（石のお爺さん）」と一緒に

の難所である243段の階段を登るとあっという間に海拔456mに到達しました。その後の昼食はバイキング形式で、お腹がすいているせいか皆何度も取りに行っていました。午後は済州民族自然史博物館を見学し、プログラムが終了となりました。



コムンオルムの展望台で

2日間という短い時間にも関わらず、お互いに打ち解けて一緒に手をつないで見学をしたり、片言の日本語や韓国語での会話やラインの交換をしたりする等、積極的な交流が行われていました。

4日目は早い出発時間でしたが、予定通り空港に到着することができました。空港では「まだ帰りたくない」との声もありましたが、無事青森空港に到着すると、皆笑顔で家族と対面していました。

怪我や病気になることもなく、4日間の旅程を無事終えることができました。

第3回JET地域国際化塾が開催されました

JETプログラムは、「語学指導等を行う外国青年誘致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、地方自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下、昭和62年にスタートしました。

外国青年を招致し、地域レベルの国際交流の進展や語学教育の充実を図ることを目的とした世界最大規模の人的交流プログラムであり、世界各国から青年が来日し、日本全国の学校で外国語を教えたり、地域における国際交流活動に携わることにより、地域の住民と様々な形で交流を深めています。

JETプログラムの参加者(国際交流員、外国語指導助手)は、地域社会との関わりを積極的に持つことを通じ、日本社会や日本人についての理解を深めるとともに、帰国後は日本と母国の架け橋となることが期待されています。

「JET地域国際化塾」は、JET青年に対して、地域づくり活動の事例視察やグループワークなどを通じて、地域の魅力についての理解を深め、地域への参加・貢献について考えてもらうことを目的として、総務省主催により、今年は2018年11月7日(水)～9日(金)の3日間にわたり、青森県において開催されました。

* 1日目(11月7日 青森県観光物産館アスパム)

- ・オープニングガイダンス
- ・基調講演

弘前観光コンベンション協会坂本崇事務局長による「地域の魅力を発見・発信～青森の地域づくりの事例を通じて～」をテーマとした講演により、地域の魅力についての理解を深めました。

- ・グループディスカッション

自己紹介と地域の魅力について考えを共有しました。



* 2日目(11月8日 各視察先、青森県観光物産館アスパム)

- ・現地視察(津軽方面、南部方面)

地域づくりの現場を視察し、地域の魅力を肌で感じました。

- ・グループワーク

基調講演、視察を踏まえ、地域の魅力発信を通じた地域への貢献についての考えを共有しました。



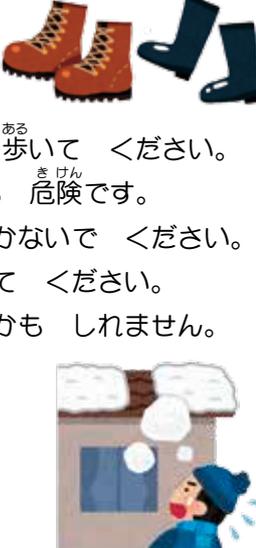
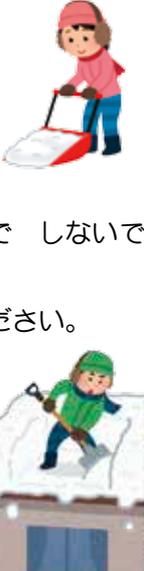
* 3日目(11月9日 青森県観光物産館アスパム)

- ・成果発表

地域の魅力発信を通じた地域への貢献についての考えを班別に発表し、共有することで、各自の地域活動への参加・貢献に対するイメージを広げました。



冬期間は雪が少ない地域でも、積雪・凍結を原因とする転倒災害が多く発生しています。青森に来て初めて「雪道」や「凍結路」を体験する外国人の方もいると思いますので、首相官邸ホームページに掲載されている「雪道を安全に歩くポイント」や、青森市と国際交流・国際協力に取り組んでいる市民活動団体に組織する「ぶらっとワールドあおもり」が外国人の方に向けて製作した『防災カード』の「大雪」を参考にまとめ、日本に住む外国人向けの生活情報誌に使えるカテゴリⅡの「やさしい日本語」へ言い換えし、弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室の皆様にご監修いただきました。

ゆきみち 雪道を 歩くときは 次のことに 気をつけて ください。	すべ 滑る ところに 気をつけて ください。
<ul style="list-style-type: none"> 滑らない 靴を 履いて ください。 ゆっくり 歩いて ください。 靴の 底を、地面に つけて 歩いて ください。 走らないで ください。とても 危険です。 手を ポケットに 入れて 歩かないで ください。 お酒を 飲むときは 気をつけて ください。 屋根から 雪や 氷が 落ちるかも しれません。 気をつけて ください。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪が たくさん 降ると、道路が 狭くなります。 自動車に 気をつけて ください。 横断歩道の 白い 線は、 滑ります。 気をつけて ください。 ロードヒーティングは 歩道を 暖めて、雪や 氷を 融かします。 ロードヒーティングが 無い ところは、雪や 氷が 融けません。 気をつけて ください。 
<ul style="list-style-type: none"> 家の まわりに 降った 雪は、片づけて ください。 雪は 道路に 捨てないで ください。 自動車が 通ることが できなく なります。 屋根から 雪を 下ろすときは、一人で しないで ください。 必ず 二人以上で 雪を 下ろして ください。 屋根から 落ちないように 気をつけて ください。 屋根に 綱を 付けてから、体に 巻いて ください。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車が 出たり 入ったりする ところは、 滑ります。 バスや タクシーに 乗る ところは、滑ります。 階段や 坂になっている 道は、 滑ります。 坂を 下りるときは、特に 気をつけて ください。 除雪車が 雪を 片づけた 道路は、滑ります。 除雪車は 雪を 片づける 車です。 

*** 首相官邸ホームページ～雪害では、どのような災害がおこるのか**

URL : <http://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/setsugai.html>

*** やさしい日本語による防災カード／青森市役所ホームページ**

URL : <https://www.city.aomori.aomori.jp/kouryuu-suishin/shiseijouhou/aomorishi-konnamati/kokusai-kouikikouryuu/09.html>



このページは、弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室にご協力いただきました。

* 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室ホームページ

URL : <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html>

JICA

トピック

topic

おしごと体験広場・キッズハローワーク(弘前市)

2018年10月14日(日)、弘前市・弘前学院聖愛中高等学校を会場に「おしごと体験広場キッズハローワーク」が開催されました(主催:おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会)。パン屋さんやネイリスト、美容師などさまざまな職業を体験できる「おしごと体験」、お仕事から社会について学ぶ「ハロー教室」、集めたハロー(疑似地域通貨)を使って遊べる「ハロー広場」などの企画に、青森県内外の60団体が出展。朝10時開始でしたが、中には朝7時から並んで待ってくれた弘前キッズもいました。



JICA東北は「ハロー広場」に出展し、「世界の国と文化」と題して青年海外協力隊のお仕事と世界の子どもたちの様子を紹介しました。

*青年海外協力隊はこんなお仕事をしています



カンボジアに派遣されていた青年海外協力隊OGは、自分が活動したカンボジアの学校では体育の先生が不足していたため、隊員として体育の授業を支援していたことを話しました。学校に2~3個しかないボールを、子どもたちはボロボロになるまで大事に使っていることや、体育館がないこと、子どもたちは夢をもって元気いっぱい生活していることを、クイズやフォトランゲージ(写真からいろいろなことを読み取るワークショップの手法)を使って子どもたちに伝えました。

なお、青森県からは2018年12月現在19名の青年海外協力隊・シニア海外ボランティアが世界16か国に派遣され、毎日汗を流しています!

*世界の子どもが運んでいる「水汲みタンク」を持ってみよう!

ウガンダに派遣されていた青年海外協力隊OGは、アフリカでは水汲みが子どもや女性の仕事である地域が多く、中学生くらいになると大きなポリタンクを持って2キロ以上歩いていることを話しました。当日は、実際に運ぶ重さのポリタンクを用意して、子どもたちに持ち上げにチャレンジしてもらいました。みんなあまりの重さにびっくり!!動かすのが精いっぱいです。

“蛇口をひねれば水が出るのは珍しいことなんだ!” “こんな重いタンクを持って何時間も歩くなんで自分にはできない、すごい”といった声が聞かれました。



子どもたちはもちろん、親御さんも熱心に話を聞いてくれました。

秋晴れの下、会場には青森県内のゆるキャラたか丸くん(弘前市)、マギユロウ、ブナッキーも登場して大盛り上がり!参加してくれたお父さんは551名、そして2,000人を超える方々にご来場いただきました。

JICA JICA東北からのお知らせ



●「JICA海外協力隊」をよろしくお願ひします

JICAは、国際協力の志を持った方々を開発途上国に派遣し、現地の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国が抱える課題の解決に貢献するJICAボランティア事業を実施しています。

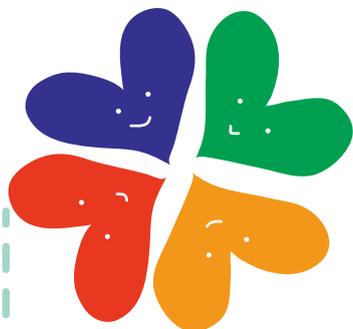
2018年度秋募集より「JICAボランティア」という総称を「JICA海外協力隊」に改めました。従来の年齢区分に代えて“専門性”による区分が導入され、青年海外協力隊以外はこれまで20~39歳は青年、40~69歳はシニアと年齢によって分けていた派遣区分を抜本的に見直し、年齢にかかわらず案件の難易度に応じて「青年海外協力隊」、または一定以上の経験・技術を持つ方をより高度な案件に対応する「シニア海外協力隊」として派遣します。2019年度春募集の応募受付開始は2月13日(水)を予定しています。



* JICAボランティアホームページ: <https://www.jica.go.jp/volunteer/>

JICA東北

JICA東北では募集期間を問わずご質問やご相談をお受けしております。お問い合わせはこちらまで。
JICA東北 市民参加協力課 ボランティア事業班 TEL:022-223-4772 FAX:022-227-3090
E-mail: jicathic-jv@jica.go.jp ホームページ: <https://www.jica.go.jp/tohoku/index.html>
JICA東北公式facebook: <https://www.facebook.com/Jicatohoku/>



青森から世界へ ~JICAボランティア活動報告~

青年海外協力隊 2017年度2次隊 パラグアイ共和国

大村 康太 (八戸市出身:陸上競技)

私の任地であるパラグアイ共和国と協力隊活動について紹介します。

パラグアイは日本との時差が12時間ほどあるブラジルに隣接する国です。南米の陽気な雰囲気に加えてパラグアイには日本のような娯楽がほとんどないため、時間がゆったりと流れているように感じます。

それを象徴するのがパラグアイ文化のテレレ(お茶)とアサード(焼肉)。暑い日が続くパラグアイの人たちは、日中は庭先でテレレを飲みながら家族や友人と世間話をして時間を過ごします。またアサードも日本の焼肉のような薄肉ではなくマンガ肉のような肉を、長ければ5時間程度焼き続けて、それをマンディオカ(タピオカの原料の芋)と一緒に食べるのが日曜日の過ごし方です。毎週このようにアサードができるのは、パラグアイにいる牛の数が人口約700万の3倍程度であると言われていたことも関係しています。

また、パラグアイは日系社会が栄えており、日本食も比較的簡単に手に入ることに加え、さらに親日国であることから、日本人が比較的過ごしやすい国だと思います。

私は現在、首都アスンシオンで陸上競技の活動を行っています。2018年8月、首都の競技場が新しくなり、練習環境は改善されたので、指導力の支援を通して競技力の向上を目指しています。



新しくなった競技場



100mのパラグアイ記録を更新して表彰

パラグアイのトップ選手を中心に指導を行い、これまで南米大会男子200mで4位、男子やり投げで3位のほか、女子100m、女子4×100mRのパラグアイ記録を更新することができました。

現在の課題は競技力向上のための選手に対する技術指導と指導者の指導力の向上の2つで、普段は午前と午後の2部に分けて指導をしています。今後の目標は2019年のドーハ世界選手権出場(男子200m)、北中米大会決勝進出(男子200m)、男子100m、男子200m、女子100m、女子4×100mR、女子走幅跳のパラグアイ記録更新、2020年の東京オリンピック出場(男子200m)です。

パラグアイの陸上競技人口は推定2000人程度で決して盛んであるとは言えませんが、陸上競技自体は好きな人が多いです。真剣に練習する彼らのために、残りの任期でパラグアイ陸上競技の可能性を自分たちで示すことができるように活動を進めていきます。



パラグアイ文化のアサード。
お腹いっぱいになります。



やりなげの技術指導中

三沢基地内大学説明会を開催しました

2018年11月10日（土）、三沢市総合社会福祉センターにおいて三沢基地内大学説明会を開催しました。今回の説明会には高校生や岩手県からの参加者もあり、全部で14名の方にご参加いただきました。

説明会では応募方法の説明、各大学概要説明、そして現役就学生や卒業生に授業の様子や学生生活、大学の魅力等についてお話いただきました。また、就学を機に基地内での仕事にも興味を持つ方がいることから、今回の説明会では基地内でのアルバイトや仕事の情報等についてもご案内しました。

県内にいながらにして米国の学位が取得できる環境に、参加者は興味深くお話を聞いていました。

●三沢基地内大学就学者募集！

当協会では、三沢基地内大学就学者の募集を年2回（3月・8月下旬入学）行っています。募集に伴い、三沢基地内大学各校や就学手続きなどについて知っていただくための説明会やオープンキャンパスの開催、また、就学希望者を対象にTOEFL ITP試験（5月・12月）を実施しています。

三沢基地内大学への就学をお考えの方、ご興味のある方は、どうぞお気軽に当協会までお問合せください。

電話：017-735-2221(担当:工藤) Email: info@kokusai-koryu.jp HP: <http://www.kokusai-koryu.jp/business/misawa/guidance/>



パネルディスカッションの様子 当協会常務理事による開会挨拶

青森県内の国際交流事業・イベント紹介

●NPO法人みちのく国際日本語教育センターさんよりご案内です

*「外国人に教える日本語講座」

■日 時：3月19日(火)、21日(木)、26日(火)、28日(木)
全4回 18:30~20:30

■場 所：八戸市福祉公民館（八戸市類家）

■対 象：日本語の教え方を学びたい日本人の方

■受講料：1回500円

■お申込み・お問合せ先：

馬場さん/TEL：080-6051-3109

E-mail: npo-mijec@ezweb.ne.jp

明日山（あけびやま）さん/TEL：080-6026-3109

E-mail: npo-mijec-jimukyoku@ezweb.ne.jp

協会からのお知らせ

●協会ホームページをご活用ください

*民間国際活動団体さんの活動状況をお知らせください

「国際活動団体一覧/青森県内の国際活動団体」に掲載しております青森県内の民間国際活動団体さんの情報は、当協会へご提供いただいた時点での情報を掲載しておりますので、変更等が必要な場合は、「国際活動団体一覧/活動調査票フォーム」より必要事項を入力し、内容をご確認の上送信してください。

活動調査票フォームURL：<http://www.kokusai-koryu.jp/activity/form.php>

*イベント案内、お知らせ案内、語学講座案内をご活用ください

国際交流や国際協力に関するイベント案内やお知らせの告知、語学講座開講案内などにご活用ください。

「お知らせ/イベント・お知らせの掲載依頼フォーム」より必要事項を入力し、内容をご確認の上送信してください。

イベント・お知らせの掲載依頼フォームURL：http://www.kokusai-koryu.jp/news_event/event_form.php

*ご注意ください

- ・ご依頼いただいた情報を確認の上、ホームページ更新作業を行いますので、変更までに数日要することをご了承ください。
- ・パソコンをご利用されない方は、お電話・FAX等でお知らせください。
- ・ホームページ閲覧者よりお問合せがありますので、掲載内容に変更がある場合は必ずお知らせください。

●バックナンバーについて

国際交流ラウンジに設置している「The Japan Times (英字新聞)」のバックナンバーを、ご希望の方にお譲りしております。数に限りがあり、利用目的を勉強などにお役立ていただける場合に限りらせていただいておりますので、ご了承ください。ご希望の方は直接国際交流ラウンジまでお越しください。

公益財団法人青森県国際交流協会 International Association of Aomori Prefecture

国際交流ラウンジ/International Lounge

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム2F

ASPAM BLDG. 2F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code: 030-0803

TEL: 017-718-5147 FAX: 017-735-5148

E-mail: lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

事務局/Office

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム7F

ASPAM BLDG. 7F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code: 030-0803

TEL: 017-735-2221 FAX: 017-735-2252

E-mail: info@kokusai-koryu.jp

Website: <http://www.kokusai-koryu.jp>

<https://www.facebook.com/aomori.kokusai.koryu>

<https://twitter.com/aomorikokusai>

・国際交流ラウンジ開館時間 9:00~18:00

・国際交流ラウンジ休館日 3月8~9日、12月31日

